

<研修テーマ> 自分の思いを出せる子にするための環境と援助

<ねらい>

- ・体を動かして遊び、楽しさや充実感を味わう。
- ・友達と一緒に好きな遊びを楽しむ中で、関わりながら遊びを発展させていく。

活動のひとこま ～どうしたらいいのかな～



黄色い帽子に警察マークを付けた警察役の子が逃げ回る青い帽子の泥棒役を真剣な表情で追いかけます。年中児がけいどうろをして遊んでいます。

保育者が遊びの途中で子どもの表情を読み取って「何か、大変？」と聞くと、A子が「警察が少ないから、泥棒がなかなか捕まらなくて大変。」と答えました。「じゃあ、どうしたらいいかな？」と再度保育者が尋ねると子どもたちが集まってきて、「警察を増やせばいいよ。」「今2人だから3人にしよう。」とアイデアを出し合い、ルールが決まっていきます。保育者は、子どもたちに必要だと感じたときを捉えて、みんなで話し合う場を作り、遊びを再構成していました。



せんせいもいっしょ
ともだちもいっしょが楽しい!

次は何を焼こうか? バーベキューごっこ

室内は、子どもたちの好きな遊び、安心できる遊びの環境が充実しています。保育室の一角に子どもと保育者でテントの屋根の準備をすると、子どもたちの気分はバーベキュー。

自分たちが折り紙で折ったきのこやイカを焼いたり、串にさしたマシュマロを焼いたりしています。子どもたちは楽しかった実体験からごっこ遊びを始めます。



じゅ〜じゅ〜
おいしそうにやけてきたよ〜

事後研修会 (講師: 県立大学短期大学部教授) 永倉 みゆき氏)

- ・4歳児には、思いのままに遊んでほしいので、大人の考えをすぐに言わず、一緒に悩んだり考えたりし、子どもたちが考えていくのを見守りたい。
- ・遊びを育てるのではなく、その遊びで子どものどのような力を育てたいのかを考えながら保育することが大切である。
- ・「やりたい!」も「やりたくない!」も自分の気持ちを出している証拠なので、自分の思いを存分にさせたい。
- ・保育者の想定内で遊んでいるということは、大人の手の内で遊んでいるということ。手の内から飛び出すくらいの子どものあらわれを面白がる保育者でありたい。



事後研修会では、他園の園長・保育者の方が参加してくださり充実した協議が行われました。